

マッサージでできること⑳ ～症例を参考に～

「俺、先生の言うことなら聞かよ」大脳基底核変性症で右片麻痺とパーキンソン病だったKさん(70)

Kさんは、週3回デイケアに行き、リハビリを行っていました。しかし、Kさん担当のケアマネージャーの方は、いつもリハビリを全力で行っていないし、ご本人からはどうせ身体は良くなるまいという後ろ向きの発言と行動ばかりしていて困っていると仰っていました。

そのため、Kさんに対して訪問によるマッサージ施術のご依頼があり、医師の同意が得られたため、訪問のマッサージが始まりました。

訪問当初、Kさんは心を全く開いておらず、会話がままならない状況が2～3回続きました。しかし、私の持ち前の勇気とガッツで、Kさんの病気によって傷ついていた心を、施術中の会話やマッサージ施術の効果と共有することにより、徐々に開くことができました。



最初は、奥さんと一緒にできるベッド上での簡単なセルフケアを教え、徐々にベッド上での座位保持やベッドから足を下し自重による運動療法を始めました。

施術開始当初から訴えのあった口の開閉困難は施術開始後1ヶ月ほどで見違えるほど改善し、Kさんも奥さんも食事が楽になったと喜ばれていました。

そんなある日、Kさんから「デイケアのリハビリを担当してくれる人はここまで親身に話を聞いてくれなかったし、セルフケアの指導もなかった。先生の施術は、身体も楽になってるし、何より先生が来るのが楽しみなんだよな。俺、先生の言うことなら頑張るし、次来る時までにはやらないと先生に怒られるしな(笑)」と仰っていただき、鍼灸マッサージ師冥利に尽きると改めて思いました。

そんなKさんは、訪問マッサージを開始して10ヶ月が過ぎた頃に、肺炎と蜂窩織炎を発症し、お亡くなりになってしまいました。亡くなる直前まで「また先生に会いたいな」と言っていたと奥さんから後日お聞きし、そこまで私を信じてついてきてくれていたんだと再認識させていただきました。(IGNIS)

季節のコラム

「梅雨の季節について」

今年も梅雨時がやってまいりました。この季節は、カビが発生しやすく、衛生的にも注意が必要な時期です。

また過度の湿気は、東洋医学的に「湿邪」という悪影響として、身体のリズムやバランスを崩します。

「湿邪」とは、主に水分代謝を乱す原因となり、身体のだるさ・むくみ・めまい・胃腸の疲れ・気分障害などを引き起こします。



対策としては、以下がお勧めです。

- ・湿度計を設置して現在の湿度を知る。
→ 湿度 60%前後が快適！
- ・除湿器やエアコンで快適な室内空間にする。
→ 特に寝室がお勧め！
- ・消化しやすい食事を選ぶ。
→ しょうが・葱などをアクセントに！
- ・軽い運動で汗をかき、湯船につかって汗を流す。

梅雨時の過ごし方はとても大切です。体調を整えて真夏日を迎える準備をしていきましょう。



(のんき)

◆訪問医療マッサージを考える会つば

つば市内での在宅における訪問医療マッサージの現状を少しでも改善させ、利用者やその家族に喜ばれるよう、市内のマッサージ師(鍼灸師も含む)有志で2015年に結成しました。

(2017年6月現在、マッサージ師9名、鍼灸師9名所属)

事務局：こぼり治療院

☎ 029-869-9979

◆ホームページ随時更新中！

<http://medical-massage-at-home.com>



最後までお読み頂き、ありがとうございます。
当会や在宅医療マッサージについて、
ご興味・ご関心をお持ち頂きましたら幸いです。